

リターンして  
「10年10万km」を達成

# バイクは50から!

ひとりでリターンライダーと言っても、一人一人にそれぞれの理由や物語がある。お遍路さんの地・四国に住む松山清さんも、そんなリターンライダーの一人。50歳で大型免許を取得し、休みごとにお遍路さんを周り、全国をバイクで走るアクティブのひとつと言だけでは表せない、松山さんのバイクライフに触れてみた。

写真 / 大林博之 文 / 平尾慎一

## 松山清さん

四国・愛媛在住の一級建築士。本誌ラリー帳5年連続コンプリートをはじめお遍路さん、日本百名山完登など今年60歳を迎えるハワフルなリターンライダー。



## BMWとの出会いで 加速したバイクライフ!

仕事や日常など人生の一区切りで、再びバイクに乗り出す人たち。いわゆるリターンライダー。いま、もつとも元気のあるライダーたちだと思ふ。四国の愛媛に住む松山清さんも、いわゆるリターンライダーだ。しかし、松山さんの場合、ほかのリターンライダーとは少し違う気がする。

「僕らの(若い)時は、教習所では中型免許しか取れなかったんです。それがたまたま今は大型免許



一級建築士でもある松山さん。週に2~3日は現場へとバイクで向かう。自宅から現場へと向かう途中にある、この県道45号途中の野福峠からの景色がお気に入り



自宅近くにある松山さんのガレージ。小学校の下駄箱などを再利用してDIYで製作。バイクを保管できるガレージなど環境面もバイクに乗るには重要だとか

を『教習所に行ったら取れるよ』と聞いて、それで取ったんですよ」松山さんが始めてバイクの免許を取得したのは18歳の時。通勤などで90ccのスクーターに乗ってはいたものの、決してバイクを楽しむ感覚ではなかった。とくに大きなきっかけがあった訳ではない。しかし、ずっと秘めていた大型バイクへの憧れ。オークションで安くバイクを購入できることを知り、

「ここで乗らなかつたら、一生乗ることはないだろう」と思い、50歳にして大型免許を取得した。それから約10年、今年で60歳を迎える松山さんはすでに10万kmを走破。そのうち7万kmが、7年ほど前に購入したBMWのK1600GTでの距離だという。

「最初に購入したCB1300SBの状態がすごく良かったので、前のオーナーに手放す理由を尋ねてみたんです。すると『憧れのBMWの購入資金』だということ。周りで、気になっていたところ、周りの友人なども良いついでだったので7年前に購入しました」

年齢を重ねてもバイクに乗り続けるには、モチベーションはもちろん、ある程度の体力が必要だ。松山さんの場合、23歳の時から行なっているのが「日本百名山」登頂。さらに登頂するために週2、3回のジョギングなどで体力作りを行なう。さらに身長1

78cm、体重90kgという恵まれた体格も、この年齢でリッターバイクを軽々と操れる理由の一つだろう。そして松山さんに限つていうと、このK1600GTとの出会いも大きな要因ではないか「自分が理想としていた



目標その1

## お遍路

バイクに出会った感じがしますね。エンジンの振動や乗り心地とか、とにかく疲れないんです。今まででしたら、出発して1時間ほどのSAで必ず休憩をしていたところ、K1600GTに変わってから、以前の倍の距離は走れるようになったら、たぶん、BMWでなかったかと思えますね」

「自分との対話の旅」だという松山さんのお遍路さん。19歳の時から始め、すでに8周目を終了。さらにお礼参りとして高野山にも8回参っている。現在でも休みの日には、順番を決めずに周る区切り打ちで9周目に挑戦している



すでに8周済み  
まるで修業!?



納札など松山さんが参る時のいわゆるお遍路グッズ。印が何重にも押された納経帳が、松山さんのお遍路の回数を物語る。これだけでもご利益がありそう

目標その2

# 日本百名山

23歳の立山黒部アルペンルートから始まった日本百名山登頂。体力維持も含めて、40代から再び本格的に挑戦し、2019年8月の北アルプス常念岳で完登。3000m級の山もあり体力的に次の目標は未定だとか



目標その3

# BikeJIN ラリー帳

2016年の“大観峰・草千里”からスタートしたラリー帳。以来、一番乗りも含めて、5年連続でコンプリート。写真は2017年のお題の一つ“尻屋崎灯台”。この後、北海道に渡って道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠へ



## 知らない道の先にある 素晴らしい景色を求めて

本誌のラリー帳を5年連続でコンプリートを達成し、さらに四国お遍路さんをバイクで2周。現在でも仕事場への行き帰りをK1600GTで行っている。そんな松山さんが、バイクに乗り続けるモチベーションとはなんだろうか？

「もともと趣味がカメラなんです。山登りを始めたのも、見たことのない景色を写真に撮るため。バイクもそうです。全国を走って初めてのところ、知らない道へ奥へと訪ねていく。そこには自分の知らないすばらしい景色があるんですよ」

ラリー帳への参加も同じような理由であった。どちらかといえば、バイクそのものより、ツーリングを楽しむなどバイクライフの方に興味があったという松山さん。多聞さんの連載「うまいもん」などの記事内容が、自身のバイクライフにフィットして以来、本誌を定期的に購読。そんな時にスタートしたのがラリー帳であった。

「じつは北海道にバイクでは行ったことがなかったんです。やっぱりライダーにとって北海道って、聖地というか特別な場所じゃないですか!? 一度、行ってみたいかつ

たんですが、きっかけがなくて。

それがラリー帳のおかげで決心が付いたというか、ラリー帳が僕を連れ出してくれたって感じですね」

テレビや雑誌などでも北海道の景色は知っていた。しかし実際に現地を走って見る景色は、それらでは伝われないほどの感動があったという。北海道だけでない、これまでクルマや旅行で行ったことのある場所も、バイクで行くと違う景色が広がる。それが松山さんの最大のモチベーションなのだろう。もちろん、ラリー帳などコンプリートしたいという気持ちがあるのも事実。もうひとつのライフワークであるお遍路さんに関して

も同様である。

「四国の人にとって、お遍路さんって日常の中にあるんです。お遍路さんでは各札所で納め札を納めるんですが、それが1周目だと白。4周したら次は緑。8周目からは赤と色が変わっていくんです。100周も周ったら錦。その錦の札を宿などで出会った人あげたら喜ぶんですよ。まあ僕はもう一方ですけど(笑)」

じつは松山さんがお遍路さんを周り始めたのは19歳の時。バイクを含めて、すでに8周参っている。松山さん曰くお遍路さんは「自己との対話」。いわば修行のような感じだそうだ。しかしバイクで周

り始めて、これまでと違う魅力も見出したともいう。

「クルマだとどうしても目的の地だけに行くってことが多いんです。バイクだとその道中を含めて、すべてが旅になる感じなんです」

一昨年前の8月に「日本百名山」のアルプスなど海外をバイクで走ることにも興味があるが、まずは登山とバイクで日本を知り尽くすのが目標だとか。この好奇心こそが、バイクに乗り続ける松山さんの最大のモチベーションではないだろうか。

## 現地で見る本物の景色！ それが僕のモチベーション



松山さんのツーリングや山登りの様子はHP『Matsuyama World』で拝見できる。<http://www.seiyo.org>

### ラリー帳が 松山さんの ツーリングの原点!

「念願の北海道に行くきっかけを与えてくれた」というラリー帳。年々上がるハードルにもかかわらず、毎年コンプリート。今では松山さんのライフワークの一つとなり、毎年行われる表彰式にも参加してくれている。トロフィー、そして歴代のラリー帳は大切に保管



ラリー帳が僕を  
連れ出してくれる



ミッションの千里浜なぎさドライブウェイ、渋谷での表彰式、出羽三山神社でのニアピン